

セミナー II

科目ナンバリング SEM-302
必修 2単位

大田 浩司

1. 授業の概要(ねらい)

今学期のテーマは「ドイツ語圏における想起の文化」とします。各回の発表担当者は自分自身の研究テーマに関する情報を収集・整理し、ハンドアウトを作成の上、パワーポイントを使って研究発表を行います。研究発表の後は参加者全員による議論の時間を設けます。

2. 授業の到達目標

- ① 自分の興味のあるテーマについて文献やインターネットを駆使して情報収集できる。
- ② 論理的で分かりやすく、また他者の興味を喚起するような口頭発表ができる。
- ③ 情報を引き出すための的確な質問ができる。
- ④ 引用・参照と出典のルールを守り、客観的な根拠に基づきながら自分の主張を論証するレポートを作成できる。

3. 成績評価の方法および基準

中間レポートと期末レポート(30%)、研究発表(40%)、授業の出席と質疑応答への積極的参加(30%)

4. 教科書・参考文献

参考文献

宮田眞治ほか 『ドイツ文化55のキーワード』 ミネルヴァ書房

石田勇治 『過去の克服—ヒトラー後のドイツ』 白水社

松本彰 『記念碑に刻まれたドイツ—戦争・革命・統一』 東京大学出版会

アライダ・アスマン(安川晴基訳) 『想起の空間—文化的記憶の形態と変遷』 水声社

5. 準備学修の内容

各回の口頭発表の担当者には相応の準備が求められます。

6. その他履修上の注意事項

質疑応答での発言をもって出席と認めますので、単位取得のためには授業への積極的参加が不可欠であるということを銘記してください。また無断欠席を4回行った学生は授業放棄とみなします。

7. 授業内容

- 【第1回】 イントロダクション(授業の進め方についての説明。今学期のテーマについての解説。発表担当者の割り振りと今後のスケジュールの確定。)
- 【第2回】 映画『ショーア』の鑑賞とディスカッション。
- 【第3回】 担当者による研究発表。受講者全員によるディスカッション。
- 【第4回】 担当者による研究発表。受講者全員によるディスカッション。
- 【第5回】 担当者による研究発表。受講者全員によるディスカッション。
- 【第6回】 担当者による研究発表。受講者全員によるディスカッション。
- 【第7回】 担当者による研究発表。受講者全員によるディスカッション。
- 【第8回】 中間レポート提出とピアレビュー
- 【第9回】 担当者による研究発表。受講者全員によるディスカッション。
- 【第10回】 担当者による研究発表。受講者全員によるディスカッション。
- 【第11回】 担当者による研究発表。受講者全員によるディスカッション。
- 【第12回】 担当者による研究発表。受講者全員によるディスカッション。
- 【第13回】 担当者による研究発表。受講者全員によるディスカッション。
- 【第14回】 キャリアガイダンス。
- 【第15回】 後期のまとめ。期末レポート提出とピアレビュー。